

平成8年1月15日

## 花柳千代と小さな仲間たち

# 新春踊りはじめ

15日、豊島公会堂(東池袋1-19)で豊島区の子どもたちの楽しい日本舞踊体験教室発表会が行われた。

この催しは、豊島区目白2丁目在住の紫綬褒章の受賞者で日本舞踊家花柳千代(はなやちよ)さんが区内の小学生を対象に日本舞踊の楽しさを知ってもらおう、また身近なものとしてもらおうと体験教室を開き、指導にあたってこられ、その成果を披露するために開かれた。

花柳さんは、母校である区立目白小学校の児童を対象に3年前から自宅を開放して日本舞踊の体験教室を開いていたが、同校の児童数の減少により区内の小学校に声をかけたところ、現在では約20名の子どもたちが稽古に通ってきている。

これまで基礎を楽しく習ってきた子どもたちも、2年、3年と経ち上手にこなせるようになり、基礎だけでは物足りないと小品に取り組むようになった。

第一部は、童歌「一つとや」、「あんたがたどこさ」などを使って「歩き方のいろいろ」、「踊りのあるき」、「町人、武士、すり足、六法歩き」の基礎練習の披露、第二部が民謡「まりと殿様」、「黒田節」、「おてもやん」、「ソーラン節」にのり日頃の成果を披露した。「まりと殿様」では子どもたちも歌い、緊張しながらも楽しそうに踊っていた。

この後、花柳千代さんが日本舞踊の講師を勤める文化庁オペラ研究所第10期研修生による「七福神」、「娘道成寺」(むすめどうじょうじ)が披露された。そして中国京劇俳優の冠然(こうぜん)らによる『孫吾空』が披露されたが、ここでも子どもたちが小猿役で登場し、今回初めて京劇の基礎を体験した。

花柳千代さんは「最近の子どもたちは、30分位お稽古をすると疲れたと弱音をはいてしまいますが、この発表会のための稽古で、一つのことに打ち込むことの大切さを学んでもらえたのではないかと思います。また、他の芸能にも目を向けてもらえればと今回オペラ研修生や京劇の俳優さんにお声掛けしてプログラムを組みました」と舞踊の普及に寄せる熱い思いの一端を語った。

詳細 花柳千代舞踊研究所